

総合的な学習の時間って何だろうって、

絵文字を調べよう！

総合的な学習の時間とは、公立小中学校で今年度から本格実施された新しい学習です。地域や学校、子どもたちの実態などに応じ、教科の枠を超えた学習や、子どもたちの興味に基づき学習が、各学校の創意工夫により行われるようになりました。

今回、その総合的な学習の時間で、幌南小三年生九十一人が取り組んだテーマは、交通標識など身近なところに多く使われている絵文字でした。子どもたちは、家庭や地域で絵文字を探すことから始め、その働きを

学び、オリジナルの絵文字制作に挑みました。「階段で遊ばない」といった学校の決まりを絵文字で表そうとしたのです。しかし、禁止する内容ばかりだと学校が楽しくありません。また、誰にでも意味の通じる絵文字を作ることは、大変なことでした。

絵文字の奥深さを実感した子どもたちは、学校近くの東急ストアプロム山鼻店を訪れ、さらに多くの絵文字を調べることにしました。そこで盲導犬同伴可の絵文字を見つけたのです。その時、子どもたちにある疑問が浮かびました。「盲導犬を連れた人は目が不自由なんだから、絵文字が見えないんじゃないかな」

子どもたちは、同店や盲導犬協会に聞いてみました。そして、この絵文字が、盲導犬の同伴を認める意味以外に、周囲の人たちにも配慮をお願いする、支え合いの心が込められた「あったか絵文字」だと学んだのです。

あったか絵文字を追いかけよう！

「ほかに張っている施設はあるかな」、「違うあったか絵文字はないかな」と、さまざまな疑問がわいてきました。そこで、子どもたちは学級に關係なく、関心のあるテーマごとにグループをつくり、校外での調査や図書館を利用した情報収集などで、さらに学習を進めていきました。

あるグループは、おもちゃに表示されている「うさぎマーク」に着目し、それが耳の不自由な子どもも一緒に遊べる工夫がされたおもちゃを示すものだ、突き止めました。また、あるグループは、車いす利用者のためのトイレやエレベーターを表す絵文字を調べる中で、手すりを設置したり、ボタンの位置を低くしたりすることで、体の不自由な人が使いやすいように心配りがされていることにも気付きました。子どもたちの関心は、絵文字を基点に多様な分野へ広がっていったのです。

地域で学ぶ子どもたち

冬休みに入り、自由研究の一環と



現地学習の様子。左から小野寺さん、中川さん、安部さん、宮本さん

して学習を続けた子どもたちもいます。小野寺えりかさん、中川寛美さん、安部由里菜さんの三人は、東急ストアを再び訪れてみました。盲導犬同伴可の絵文字を広報誌で紹介してほしいと発案したのが小野寺さんです。「張ってあっても気付かない人や、意味を知らない人がいるんじゃないかと思いました」と話します。

三人が同店に到着すると、店長の宮本山広さんが出迎えてくれました。「盲導犬を連れた人は少ないのに、どうしてわざわざ絵文字を張っているの」、「実際に手助けすることはあるの」。そんな質問に、宮本さんが一つ一つ丁寧に答えていき、子どもたちは熱心に耳を傾けます。「子どもたちは真剣に知りたいという気持ちが伝わってきます」と宮本さん。前回会った時は声も小さく、やっとの思いで質問していた子どもたちが、今は堂々としており、成長したのが目に見えて分かると話します。

総合的な学習の時間では、地域全体が学習の場です。「地域貢献を一番に考えている」。宮本さんがそう語る通り、同店は地域の小中学生の学習に積極的に協力しています。今回も、子どもたちのレポートを店内に



盲導犬同伴可の絵文字（上）は、日本盲導犬協会が作成したもので、一般の人々に盲導犬への理解を深めてもらい、盲導犬利用者に安心して施設を訪れてもらう趣旨がある。うさぎマーク（下）付きのおもちゃは、光や振動で遊びを盛り上げるなど、聴覚障害者のための工夫がされており、日本玩具協会が指定している

